

学習支援ポータルサイト（子供の学び応援サイト） 調査報告及びリニューアルの方向性について

2023年3月27日

調査概要

○調査の目的

文科省が運営している、「学習支援コンテンツポータルサイト（子供の学び応援サイト）」について、来年度にリニューアルを考えているが、こういった公示を出すべきかの軸を設定するために、現状のサイトの認知度や使われ方、利用頻度、どんなコンテンツがあれば利用するかなどの調査を行いたい。

○調査概要

- ・調査時期：2023年3月8日～13日
 - ・調査方法：インターネット調査
 - ・調査対象：全国 25～69歳男女
 - ・割付条件：【1】保護者（小学生・中学生・高校生の子供あり）
全国25～69歳男女、子供あり
同居している第1子のお子様、小学生・中学生・高校生で割付
 - 【2】教員など教育関係者
全国25～69歳男女、有職者
教員（幼稚園～高校）、教育委員会関係者など教育に携わっている人
- ・割付・回収数：

	サイト利用経験者	サイト未利用／ 非認知者
小学生の保護者	177	205
中学生の保護者	175	202
高校生の保護者	175	201
教員・教育関係者	175	202

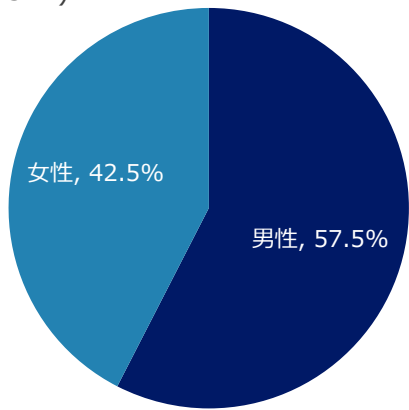
※保護者と教育関係者どちらにも当てはまる場合はランダムに割り振り。

- ・調査機関：株式会社オノフ

調査対象者 属性

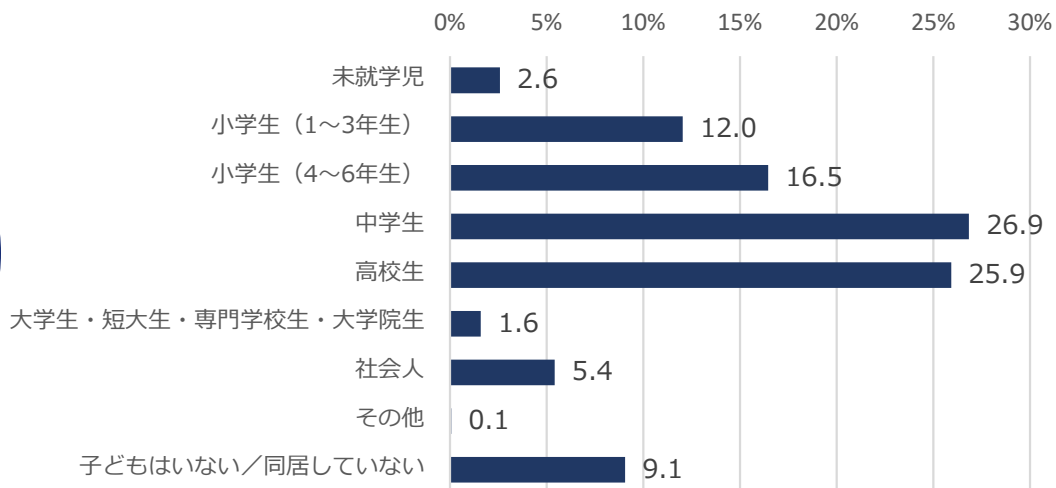
【性別】

(N=1512)



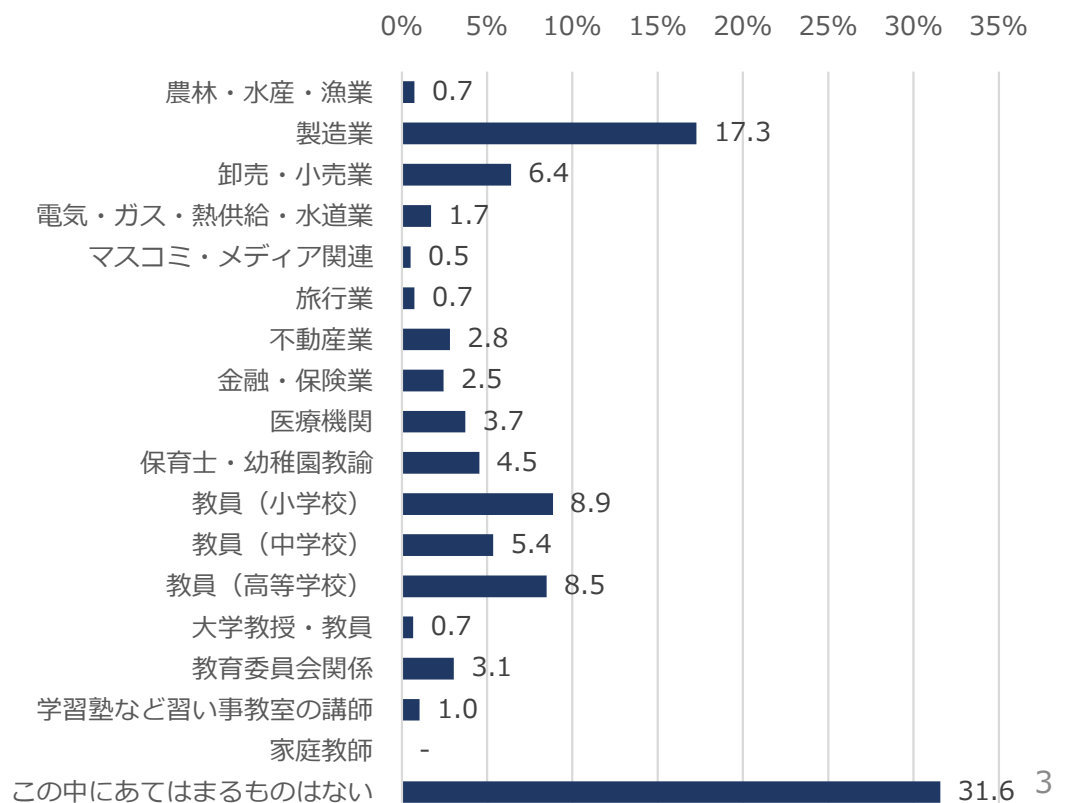
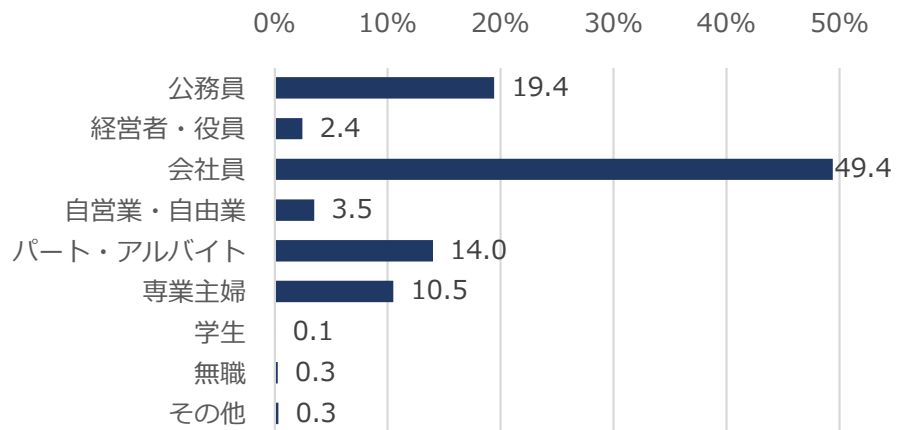
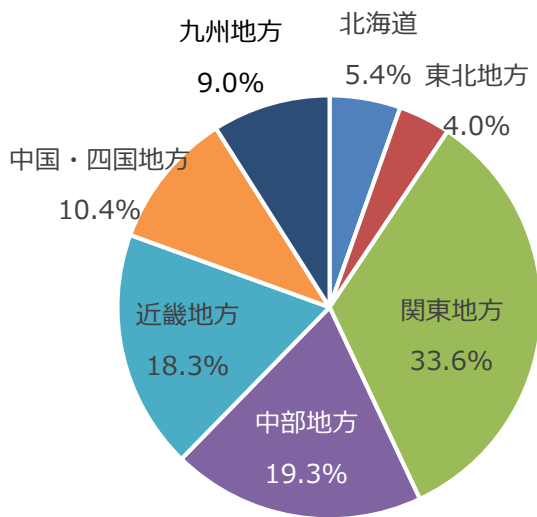
【同居している第1子のお子様の学齢】

(N=1512)



【居住地域】

(N=1512)

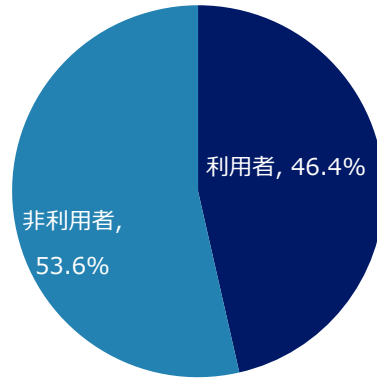


調査の詳細

ターゲット属性及び割付条件

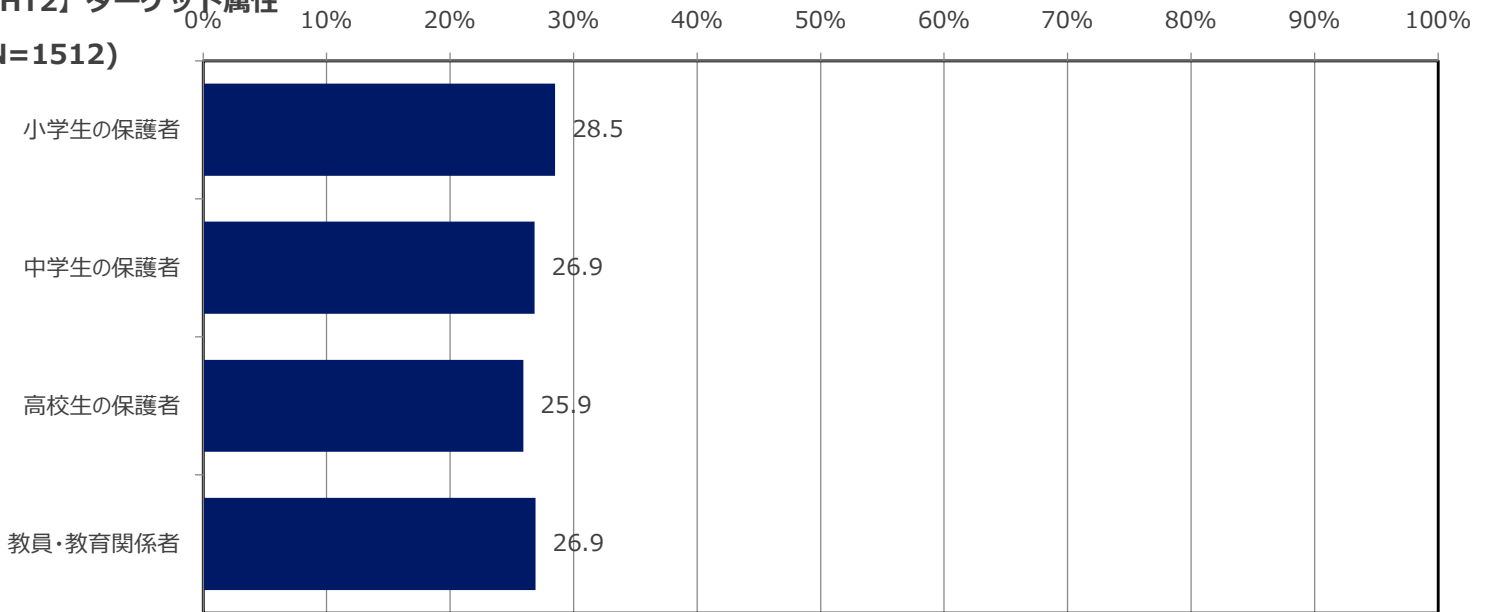
【HT1】 サイト利用状況

(N=1512)



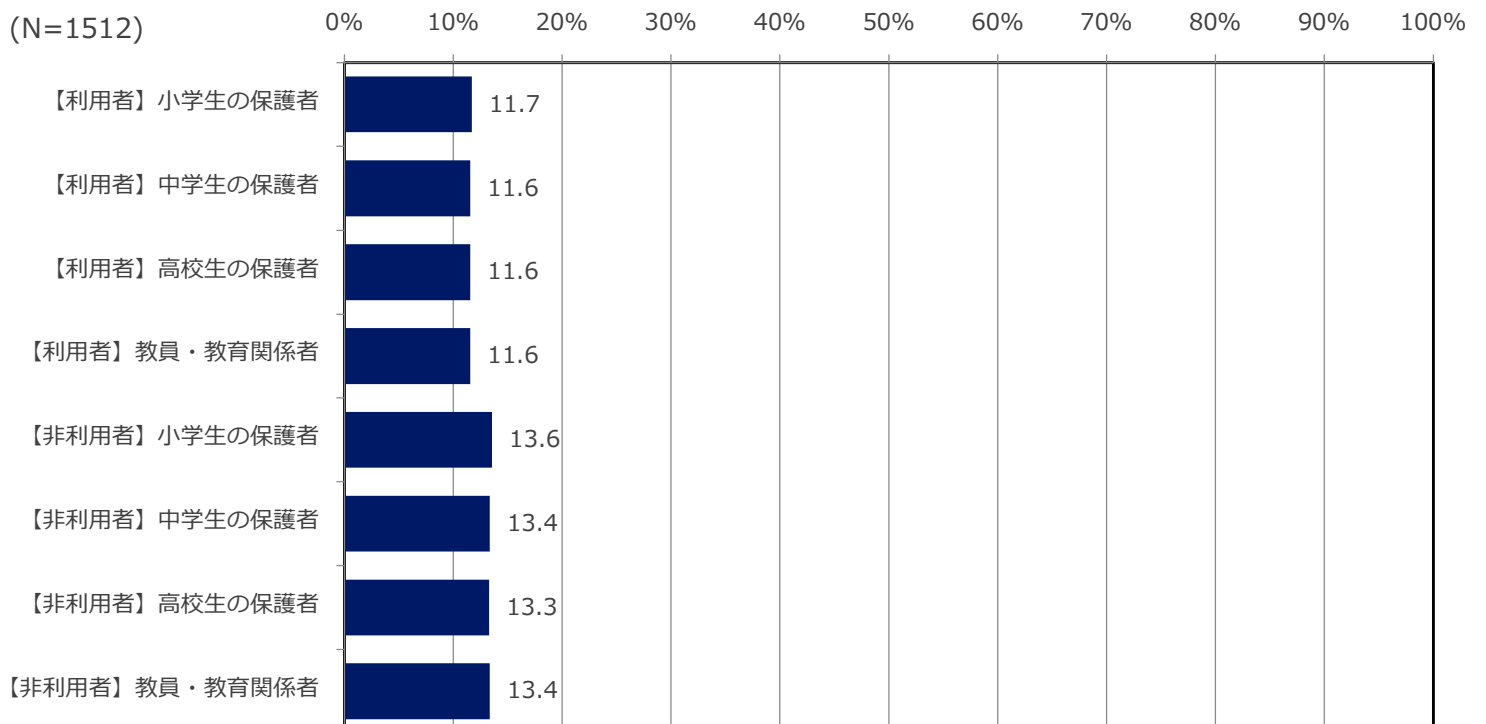
【HT2】 ターゲット属性

(N=1512)



【TARGET】 割付条件

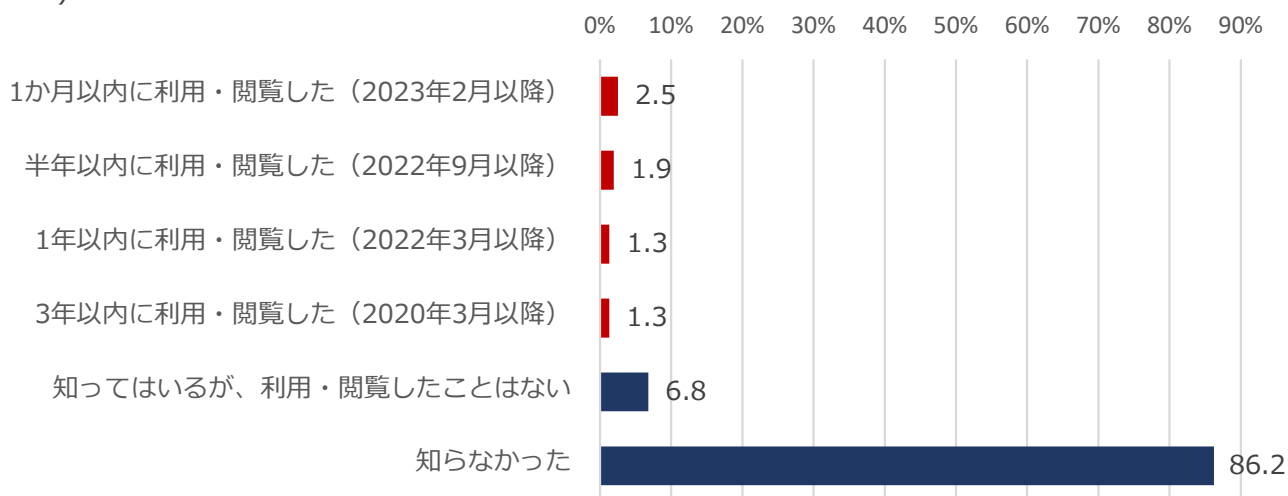
(N=1512)



調査の詳細

分析結果

【SC4】あなたは、以下の文部科学省が提供している「子供の学び応援サイト～学習支援コンテンツポータルサイト～」を利用・閲覧したことはありますか？利用・閲覧したことがある方は、一番最近利用・閲覧した時期もお答えください。※利用には、お子様が利用している場合なども含めてお考えください。
(N=19994)



【参考】ターゲット属性ごとの認知利用状況

(N=12580)		1か月以内に利用・閲覧した (2023年2月以降)	半年以内に利用・閲覧した (2022年9月以降)	1年以内に利用・閲覧した (2022年3月以降)	3年以内に利用・閲覧した (2020年3月以降)	知っているが、利用・閲覧したことはない	知らなかった	認知 (計)	利用 (計)
全体		12580	3.4	2.5	1.6	1.7	7.5	83.3	9.2
属性	小学生の保護者	4602	3.6	2.8	1.7	1.6	5.2	85.1	9.7
	中学生の保護者	2822	4.0	2.4	1.7	1.5	6.0	84.4	9.5
	高校生の保護者	3274	2.5	2.1	1.1	1.3	6.4	86.6	7.0
	教員・教育関係者	2322	3.4	3.1	2.7	3.2	16.4	71.2	12.4
	保育士・幼稚園教諭	489	2.5	0.8	0.6	1.6	7.2	87.3	5.5
教育関係者	教員 (小学校)	563	5.9	5.5	3.2	3.9	21.3	60.2	18.5
	教員 (中学校)	372	5.4	4.3	4.0	4.8	20.7	60.8	18.5
	教員 (高等学校)	613	2.0	2.4	3.1	2.4	18.3	71.8	10.0
	大学教授・教員	532	1.1	1.9	1.3	1.3	10.3	84.0	5.6
	教育委員会関係	285	1.1	2.1	2.5	3.9	13.0	77.5	9.5
	学習塾など習い事教室の教員	1068	3.1	1.8	1.4	1.1	8.6	84.0	7.4
	家庭教師	59	8.5	1.7	1.7	-	3.4	84.7	11.9

< サイト認知利用状況 >

●サイトの認知状況は、「教員・教育関係者」は28.8%が認知しており、保護者（小中高平均14.6%）よりも認知は高い。

└「教員・教育関係者」の中でも特に「小学校・中学校の教員」の認知が高く、約4割が認知している。ただ、4割の認知のうち、半数以上は「知っているが、利用・閲覧したことはない」が占めている。「教育委員会関係」においては、認知者が22.5%となっている。

●利用状況においても、認知と同様、「教員・教育関係者」の利用が「保護者」よりも若干多い傾向。

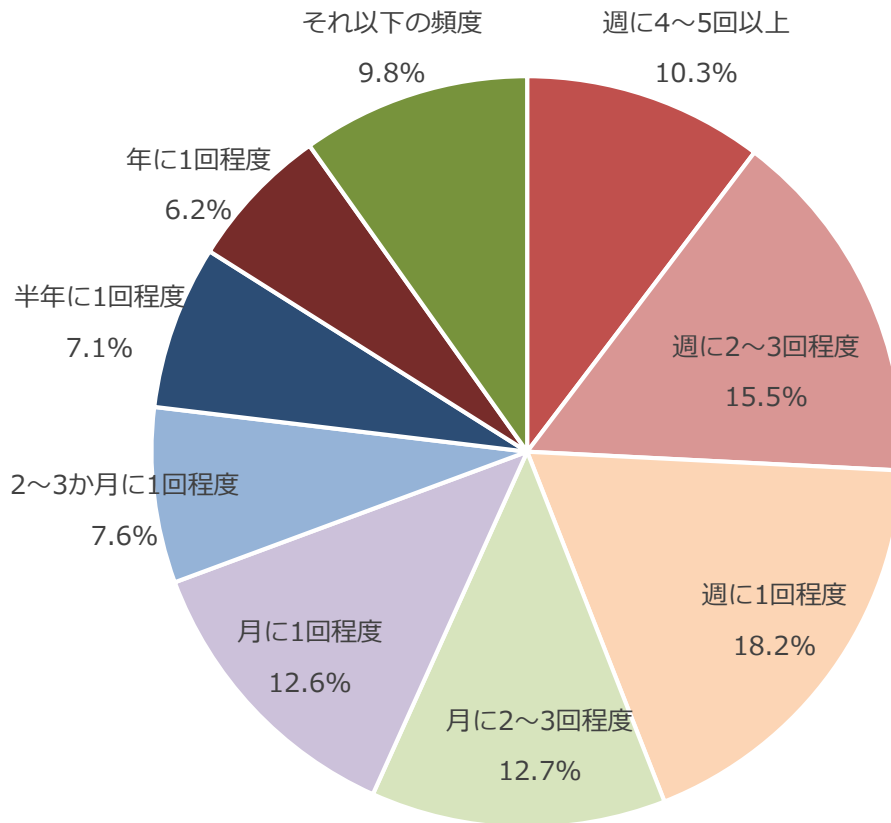
└特に利用しているのは、「小学校・中学校の教員」で18%程度が利用経験がある。

< リニューアルに向けての示唆 >

子どもの学び応援というタイトルからも、小中学生の学びのために利用する需要が多く、利用者としては教育関係者の割合が多いという結果から、主なターゲット層としては「小中学校の教員」続いて「小中学生の保護者」とするのが良いと考えられます。

調査の詳細

【SC5】あなたは、以下の文部科学省が提供している「子供の学び応援サイト～学習支援コンテンツポータルサイト～」を利用・閲覧したことがあるとお答えですが、どのくらいの頻度で利用・閲覧していますか？※利用頻度は、お子様の利用なども含めてお考えください。(N=1403)



<サイト利用頻度>

- 保護者の方が利用頻度高い。特に、小学生の親は利用頻度が高い傾向。
↳小学生の保護者は、利用経験者448人のうち249人（55.6%）が週に1回以上利用している。
<【クロス表】ターゲット属性別SC5参照>
- 教育関係者は、年に1回程度や半年に1回程度が保護者に比べて多い。
↳週に1回以上利用者は利用経験者288人のうち、69人（24.0%）程度。
<【クロス表】ターゲット属性別SC5参照>

<リニューアルに向けての示唆>

義務教育が始まる子どもをもつ親にとって助けとなる情報やコンテンツを、文科省として届けることはとても重要だと考えられます。

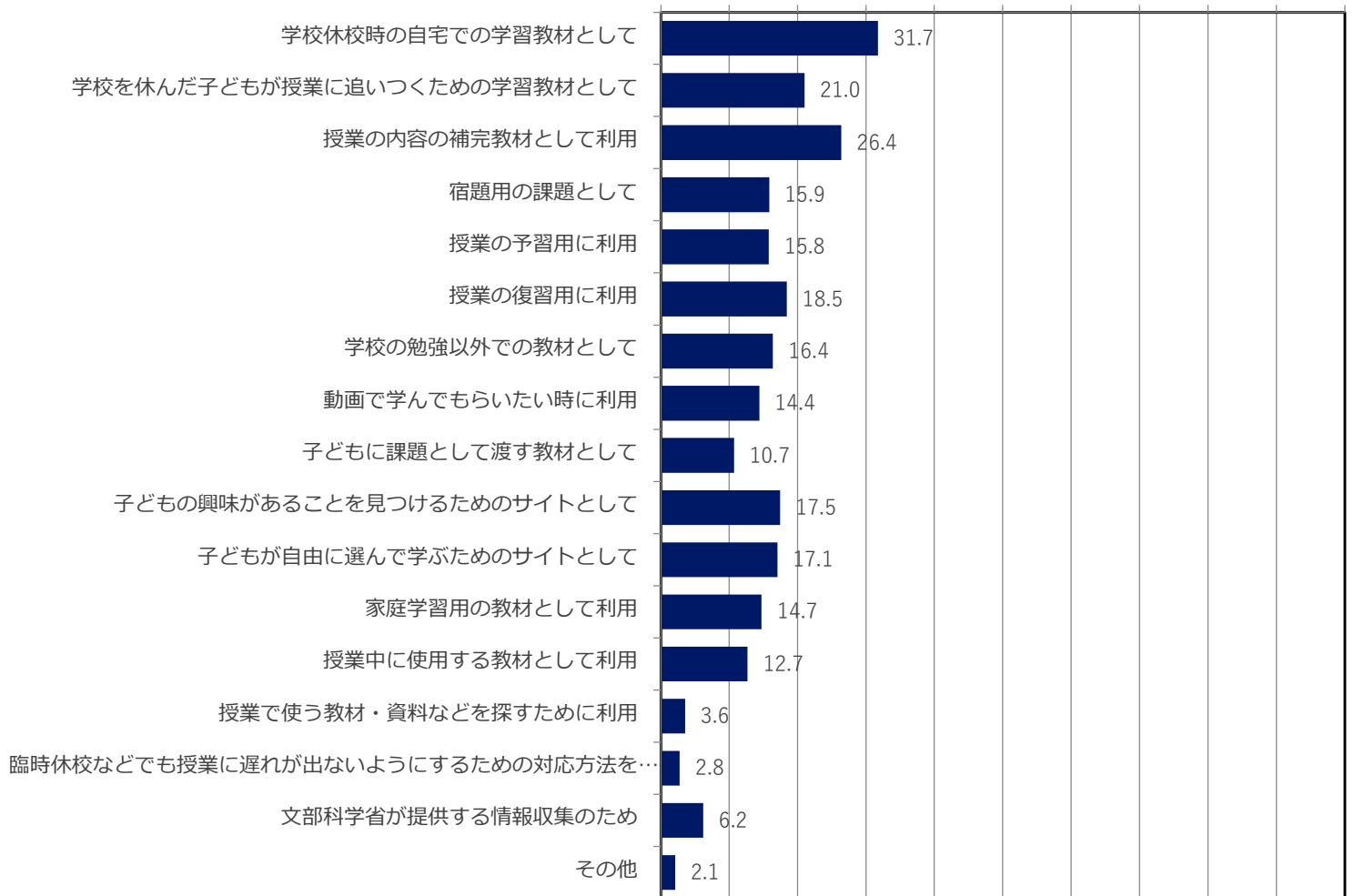
また、教育関係者向けには年度ごとで年間を通して関わるような情報を届けるなど、全体の指針となる役割が求められていると考えられます。

分析結果

【Q1】あなたは、この「子供の学び応援サイト～学習支援コンテンツポータルサイト～」をどのように利用していますか？あてはまるものをすべてお選びください。※利用・閲覧したことがない方は、利用するならどのように利用したいかお答えください。

(N=1512)

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



<サイト利用目的>

- 保護者については、休校時の自宅学習教材としてや、授業の予習・復習のような利用方法が多い。
- 教員・教育関係者は、最も多いのは「文部科学省が提供する情報収集のため」が23.1%。

授業で使う教材・資料を探すための利用も多め。<【クロス表】ターゲット属性別 Q1参照>

- 利用頻度【高】（週1以上）では「授業内容の補完教材として利用」「休校時の自宅学習教材」「休んだ子どもが授業に追いつくための教材」「授業の予習」など授業に関与する形での利用が多い。
- 利用頻度【中】（月2-3回～2-3か月に1回）では、「授業内容の補完教材として利用」が最も多いものの、次いで「子どもの興味があることを見つけるサイトとして」が多く上がっている。子どもの興味を見つけるために子どもに案内し、子ども任せで保護者や教員の利用頻度が少し下がっている可能性も考えられる。
- 利用頻度【低】（半年に1回以下）は、「休校時の自宅学習教材として」が最も多い。次いで、「授業内容の補完教材として利用」「文部科学省が提供する情報収集のため」が続いており、コロナ禍の学校休校時に利用したきりあまり使っていなかったり、教員などが文部科学省からの情報収集で時々使うような利用状況がうかがえる。<【クロス表】サイト利用状況別 Q1参照>

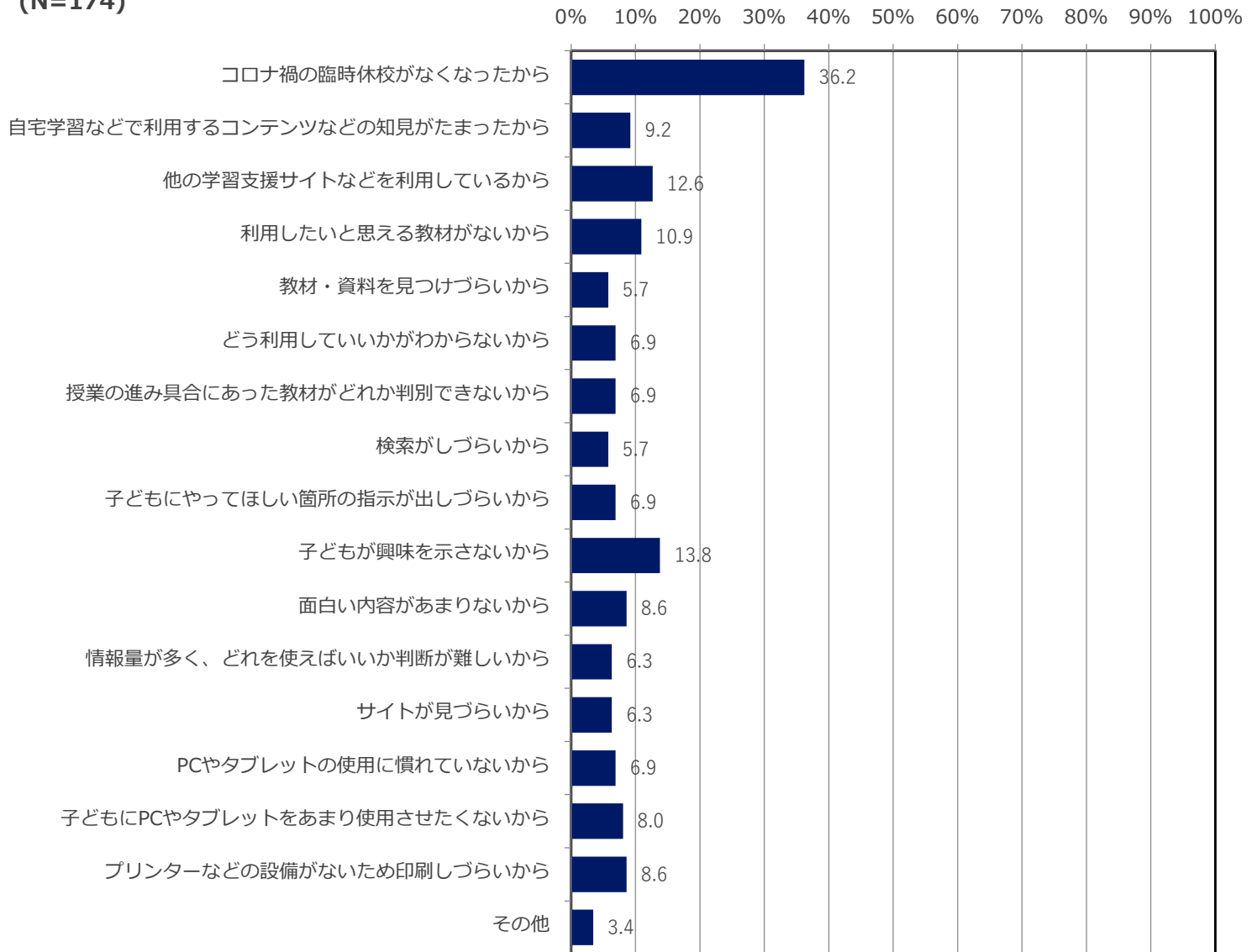
<リニューアルに向けての示唆>

保護者の理由はコロナ化で休校になった期間での利用が多かった印象であるため、今後の利用方法としては、「子供自身が興味あることを見つける、自由に選んで学ぶ」を重視し、教育関係者向けには、文科省からの情報を収集しやすい作りを意識することが望ましいと考えられます。

調査の詳細

【Q2】あなたが、「子供の学び応援サイト～学習支援コンテンツポータルサイト～」を利用して
いない／最近利用していない理由としてあてはまるものをすべてお選びください。

(N=174)



<サイト非利用理由>

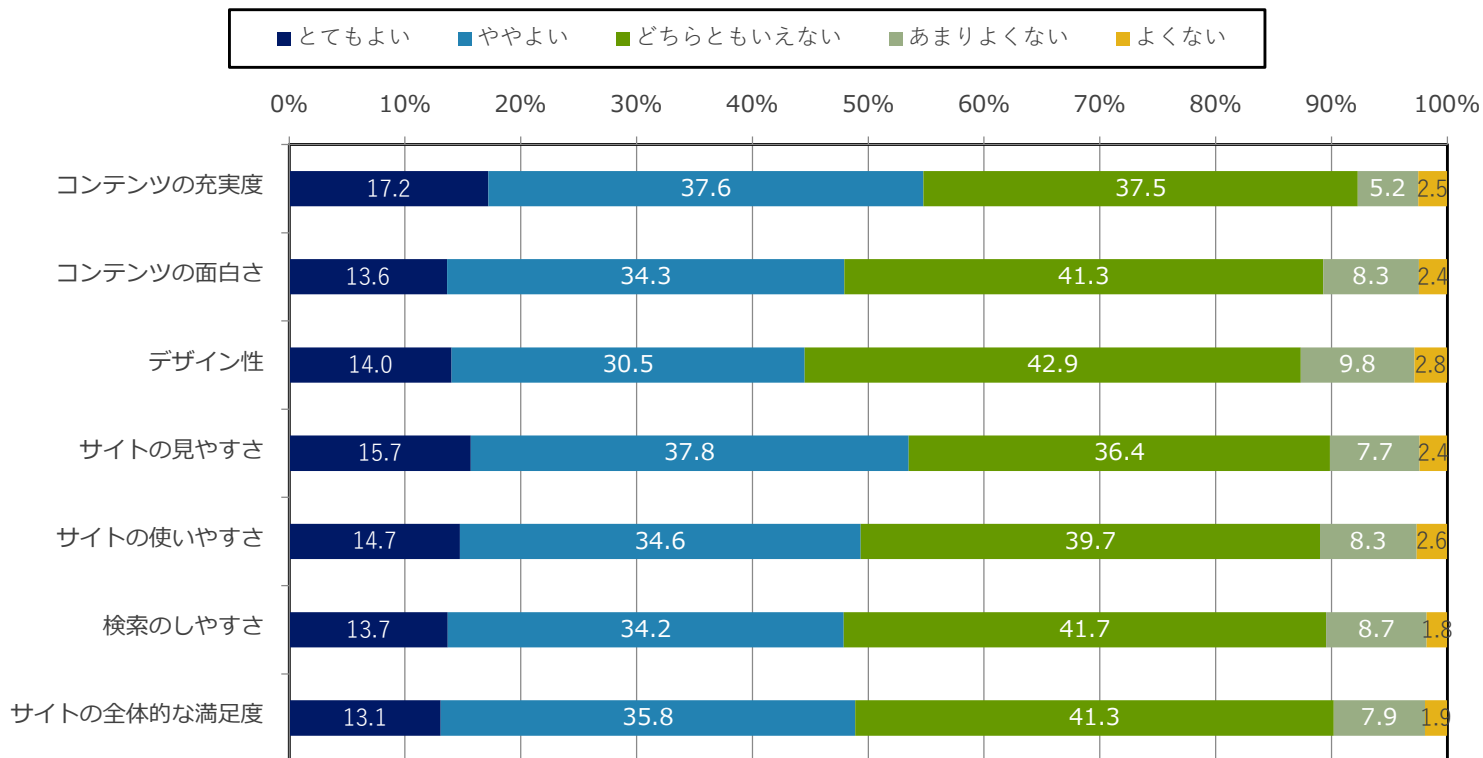
- 利用者が最近利用していない理由としては、「臨時休校なくなったから」が圧倒的に多い。
- 非利用者については、利用したいと思える教材がないから、授業の進み具合に応じた教材がどれか判別できないなど、選び方、コンテンツ内容などに関する不満要因が多い。

<リニューアルに向けての示唆>

最近利用していない理由からも緊急時の指針としての役割が大きかったと考えられます。今後の利用を増やすためには緊急時以外での活用理由が必要になってくるため、デジタル化推進によりニューノーマルとなるであろう学習eポータルとの連携が欠かせないと考えられます。その際には教員や親だけでなく子供が興味を示し利用したいと思えるようなインタラクティブな要素も重要になると考えられます。

調査の詳細

【Q3】この「子供の学び応援サイト～学習支援コンテンツポータルサイト～」について、以下の項目それぞれの評価をお答えください。



<サイト評価>

- 充実度など比較的全項目半数程度「よい」と評価されているが、若干「デザイン性」については、「よい（計）」の評価が低めで44.5%となっている。次いで、「コンテンツの面白さ」「検索のしやすさ」の「よい（計）」が低めで47.9%。
- 比較的「教員・教育関係者」の評価は低めになっている傾向。

<【クロス表】ターゲット属性別 Q3S1~S7参照>

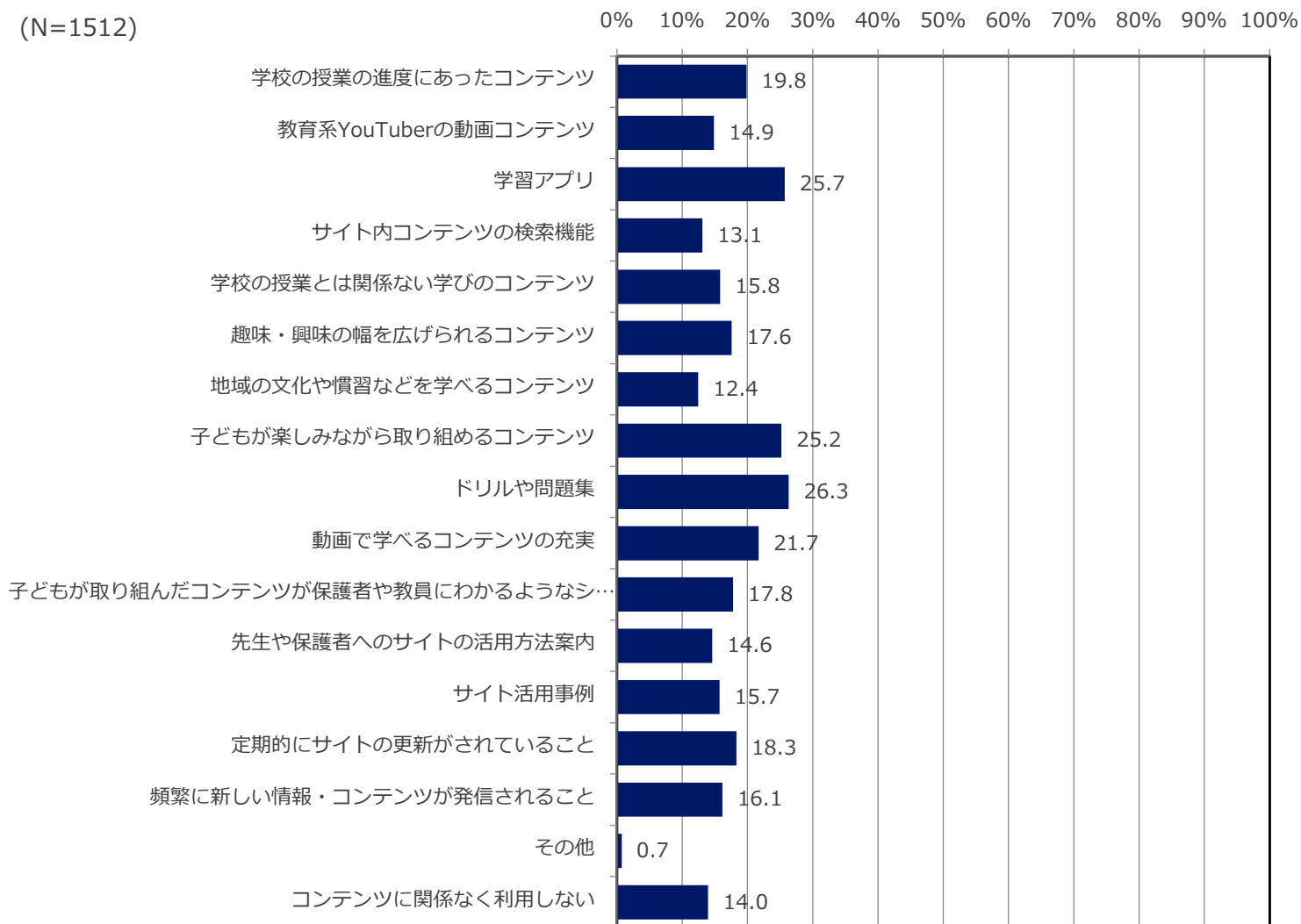
<リニューアルに向けての示唆>

全体の評価としては良い傾向。ただ、デジタル化の推進により今後さまざまな教育コンテンツが世の中に溢れると考えられるため、継続的な見やすさ・使いやすさの改善、ユーザー体験の向上は必須と考えられます。

調査の詳細

【Q4】 ご覧いただいた「子供の学び応援サイト～学習支援コンテンツポータルサイト～」は、今後リニューアルを検討しています。この「子供の学び応援サイト～学習支援コンテンツポータルサイト～」にどのようなコンテンツ・要素があれば（より）利用してみたいと思いますか？あてはまるものをすべてお選びください。

(N=1512)



<求められるコンテンツ・要素>

- 小学生の保護者は、ドリル・問題集／アプリといった内容よりも子供が楽しみながら取り組めるコンテンツ、動画で学べるコンテンツなど楽しさ、わかりやすさを求めている可能性あり。
- 中学・高校の保護者となると、ドリルや問題集、学習アプリのニーズが高まっている。
<【クロス表】ターゲット属性別 Q4参照>
- 動画で学べるコンテンツの充実も、特に利用者にニーズあり。
<【クロス表】割付別 Q4参照>

<リニューアルに向けての示唆>

色々調べて利用するよりも、比較的気軽で簡単に楽しみながら利用できることが求められていると言えます。近年使いやすい学習アプリも増えてきているため、使い慣れているアプリの見た目や操作感到近い方がアプリのネイティブ世代にも慣れているUIで使いやすいと感じてもらえると考えられます。

調査の詳細

【Q6】この「子供の学び応援サイト～学習支援コンテンツポータルサイト～」のような、文部科学省が提供する学習支援のポータルサイト（※）があった場合、あなたはどのように使っていきたいと思いますか？あなたのお気持ちとして以下の内容のどちらに近いか、あてはまるものをお選びください。

※「学習支援のポータルサイト」とは、お子さんの学習のサポートとして、授業やご自宅で活用できる教材・問題集や動画など様々なコンテンツが紹介されているサイトです。

(N=1512)



【A】

【B】

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



<ポータルサイト利用方法意向>

- 授業での教材・コンテンツとしての利用の方が、家庭よりも利用意向高い。
- 学校の勉強以外のことを学ぶコンテンツよりは、学校の授業に関連するコンテンツとして利用したいと思われる。
- コンテンツを選ぶのは、利用者においては、先生や保護者から指示する形の方が望まれている。
 <【クロス表】割付別 Q6S3参照>
- 利用経験がない場合は、どちらでもよいが半数を占めており、先生や保護者から指示するか、子供が選ぶかについては、「子供が選ぶ形」が望まれている傾向。<【クロス表】割付別 Q6S3参照>

<リニューアルに向けての示唆>

非利用者は名前から子ども主体で学べるサイトというイメージを持っているとも考えられます。リニューアルにあたってサイトの持つ役割に合わせてタイトルの変更も視野に入れても良いかもしれません。

○調査結果サマリ

<サイト認知利用状況>

- ・「教員・教育関係者」は28.8%が認知、特に「小学校・中学校の教員」の認知が高い

<サイト利用頻度>

- ・小学生の親は利用頻度が高い傾向。利用経験者のうち55.6%が週に1回以上利用

<サイト利用目的>

- ・保護者については、授業の予習・復習のような利用方法。
- ・教育関係者は、最も多いのは「文部科学省が提供する情報収集のため」

<サイト非利用理由>

- ・「臨時休校なくなったから」

<サイト評価>

- ・充実度など比較的全項目半数程度「よい」と評価

<求められるコンテンツ・要素>

- ・小学生向け：子供が楽しみながら取り組めるなどわかりやすいコンテンツ
- ・中高生向け：ドリルや問題集、学習アプリ

<ポータルサイト利用方法意向>

- ・授業での教材・コンテンツとしての利用の方が、家庭よりも利用意向高い。

○リニューアルへ向けての方向性の示唆まとめ

調査結果から本サイトの役割を整理すると、「子どもの学びをサポート」という目的に対して、文科省という国の指針としてターゲットに合わせた情報提供が求められています。

上記を達成するにあたり、優先度としては義務教育が始まる小学生を学ばせる立場である「教育関係者」及び「保護者」がそれぞれ求めている情報やコンテンツを提供することが望ましいです。

「教育関係者」向けには、年間を通して授業で利用できるコンテンツの提供、「保護者」向けには、学びはじめの子どもたちにどんな教育を与えるべきかという指針と、学ぶことが楽しくなるようなコンテンツの提供などが考えられます。

続いて、中高生向けにはより自主的に学べるような、動画やドリルや学習アプリのようなコンテンツを用意することが望ましいです。

サイトデザインの方向性としては、コンテンツへの誘導までは「教育関係者」や「保護者」を意識し、コンテンツ自体のデザインの方向性は、実際に学ぶ子どもたちを意識したものが望ましいと考えられます。また、今後もコロナのようなパンデミックによる休校などが起こった場合も想定し、事前にそういった場合の対応方法をサイト内で発信しておくことも、文科省発信としてとても重要だと考えられます。

学びのDX推進に向けた学習コンテンツ充実・活用促進実践研究

令和5年度予算額（案） 24,607千円
（新規）



事業を実施する背景

- 人生100年時代やDXの急速な進展、新型コロナウイルス感染症をはじめとした緊急時の学びの保障対策など、学校内外のDX推進が急務
- 学校現場の「1人1台端末環境」を踏まえ、デジタル教材・学習コンテンツのさらなる充実・活用促進が必要（GIGAスクール構想は整備フェーズから利活用フェーズへ）
- 自治体のDX推進も見据え、教育委員会を巻き込み、子供、教員、保護者の多様なニーズに応じた学習コンテンツの作成を行うとともに、ハブ機能を有した利便性の高い学習支援ポータルサイトの構築が求められている



これまでの取組と今後の課題

- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う臨時休校への対応として、「子供の学び応援サイト」を緊急的に立ち上げ、「学習支援コンテンツポータルサイト」として一定の役割を果たした（NHK for School、教育委員会、大学、教科書発行者、NPO等の作成する無償の教材や動画を掲載。リンク数約800、延べ閲覧回数650万PV以上、LINE登録数約33万人。）
- 今後はGIGAスクール構想の新たなフェーズ（利活用フェーズ）を後押しすべく、民間企業・団体等とも連携しながら、新規学習コンテンツの拡充や内容の抜本的な刷新が必要
- 学びのDX推進に向け、「学習eポータル」と「学習コンテンツ」との連携や利活用に向けた検討が必要

政府文書等における提言

「学校DX推進PT提言～デジタルを活用して学校を「スマート」に！～」（令和4年6月自由民主党政務調査会文部科学部会）
教育委員会などの公的機関のみならず、民間企業・団体等とも連携しながら、学校現場が利用できるデジタル教材・学習コンテンツの充実を図ること。特に、国が整備したMEXCBT・子供の学び応援サイトについては、例えばある自治体が作成した優れたコンテンツを他の教育委員会・学校も活用できるように、その内容を充実し、一層の普及促進を図ること。

「教育未来創造会議提言」（令和4年5月政府会議決定）
探究・STEAM・アントレプレナーシップ教育を支える企業や大学、研究機関等と学校・子供をつなぐプラットフォームの構築や、科学館や対話・協働の場を活用した地域展開等を推進する。

学びのDX推進に向け、「コンテンツ」・「機能」・「デザイン性」の充実・高度化を図る等、サイトの抜本的改革が急務

令和5年度の取組 ▶ 学びのDXを推進するポータルサイトの構築・新規コンテンツの充実 【民間企業等 1箇所×24百万円】

【メインターゲット】 子供（小・中・高）、保護者、教員

【活用目的】 1人1台端末環境を踏まえ、学習支援コンテンツの充実による学校内外での活用を促進（授業や自宅学習での活用、緊急時の学びの保障等）

【取組内容】

- ★ 保護者や教員のニーズを徹底分析し、効果的な情報発信、充実した内容のポータルサイトを構築（授業や家庭で日常的に活用されるサイトを目指す）
- ★ 都道府県教育委員会等が作成する各地域の特色・ニーズに応じたコンテンツの収集・展開。新規コンテンツの開発（教育系youtuber動画、学習アプリ等）
- ★ 子供目線の「使いやすさ」、好奇心をくすぐる「見た目」・「面白さ」を徹底的に追及するとともに、検索性、利便性にも配慮
- ★ 「学習eポータル」と「学習コンテンツ」との連携に向けた検討

事業を通じて得られる成果（インパクト）

- ✓ 学びのDXの推進（デジタル教材・学習コンテンツの充実・活用促進、学習eポータルとの連携）
- ✓ 緊急時の学びの保障